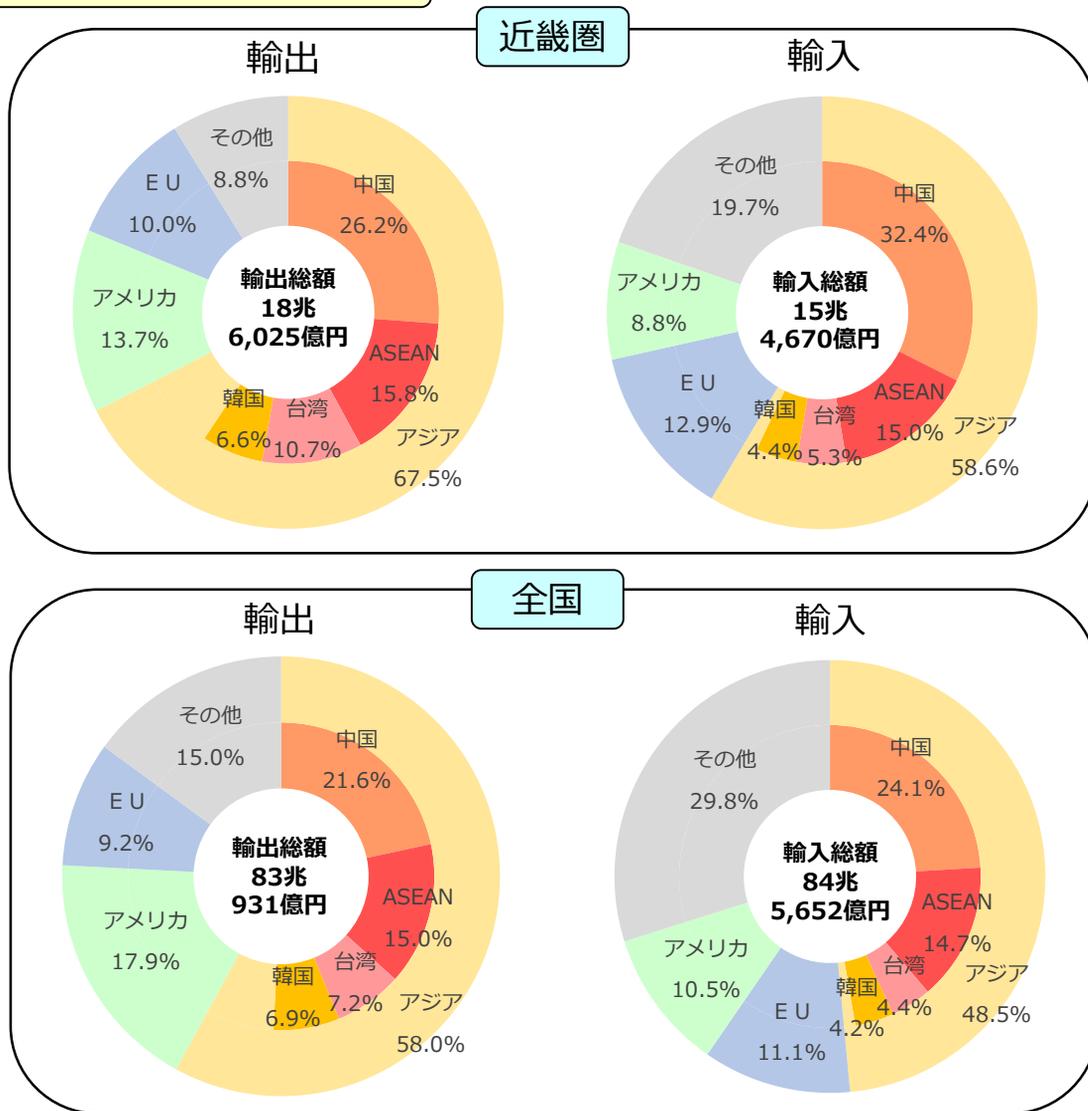


# 近畿圏とASEANの貿易



近畿圏における貿易の特徴として、アジアとの貿易が全国に比して大きいことが挙げられます。また、2022年1月からは地域的な包括的経済連携（RCEP）協定※1が発効しました。そこで、今回は近畿圏におけるアジアの貿易、特にASEAN（東南アジア諸国連合）※2との貿易について取り上げます。

## 2021年貿易額（速報値）



2021年の貿易額（速報値）をみると、全国の貿易額ではアジアの世界に占める割合は輸出は58.0%、輸入は48.5%です。一方、近畿圏においては輸出は**67.5%**、輸入は**58.6%**となっており、近畿圏におけるアジアの構成比が大きいことがわかります。

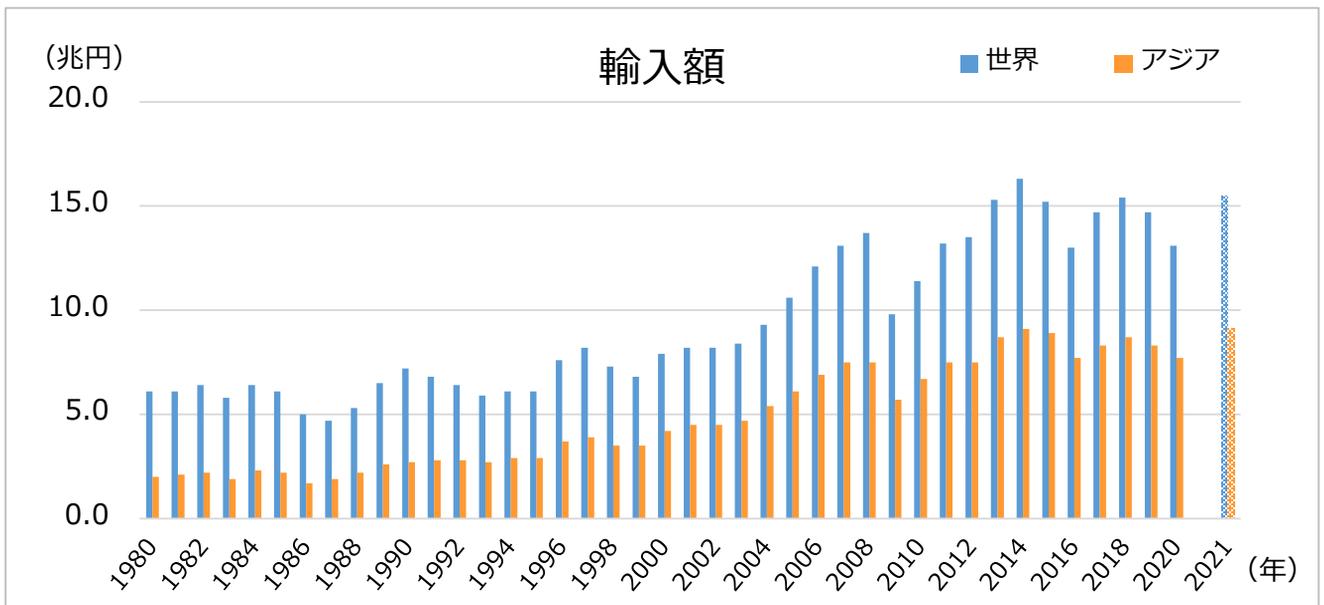
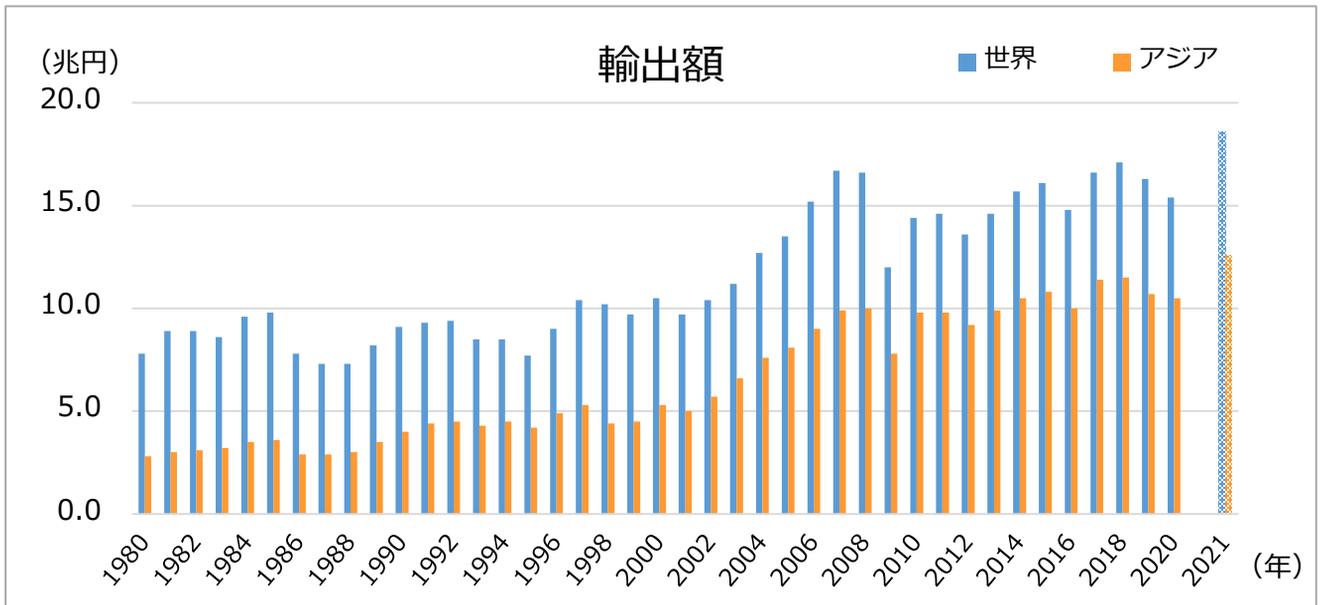
そのアジアの中の構成において最も大きな割合を占めているのは、全国・近畿圏ともに中国となっております。また、経済圏としてはASEANの構成比が大きくなっています。

※1 地域的な包括的経済連携（RCEP）協定は2022年1月現在、日本、中国、オーストラリア、ニュージーランド、ブルネイ、カンボジア、ラオス、シンガポール、タイ、ベトナムが発効している。

※2 ASEANには、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマーの10か国が含まれる。

## 近畿圏の貿易額推移

近畿圏における1980年以降の貿易額推移を世界とアジアで比較します。



上の推移グラフのとおり、近畿圏の貿易額は、輸出入ともに一時的に減少する年もありますが、概ね増加傾向にあります。

貿易額について1980年と2020年を比較すると、対世界の伸びは輸出が7.8兆円から15.4兆円へと約2倍、輸入が6.1兆円から13.1兆円へと約2.2倍ですが、対アジアの伸びは輸出が2.8兆円から10.5兆円と**約3.7倍**、輸入については2.0兆円から7.7兆円へと**約3.9倍**となっています。世界全体の貿易の伸びに対してアジアとの貿易の伸びが大きいことがわかります。

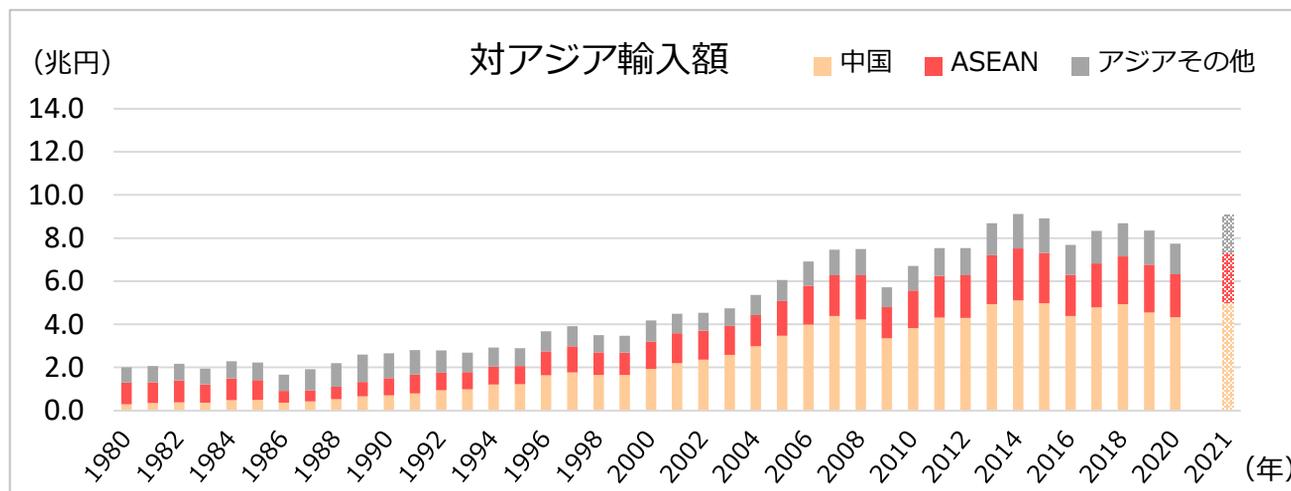
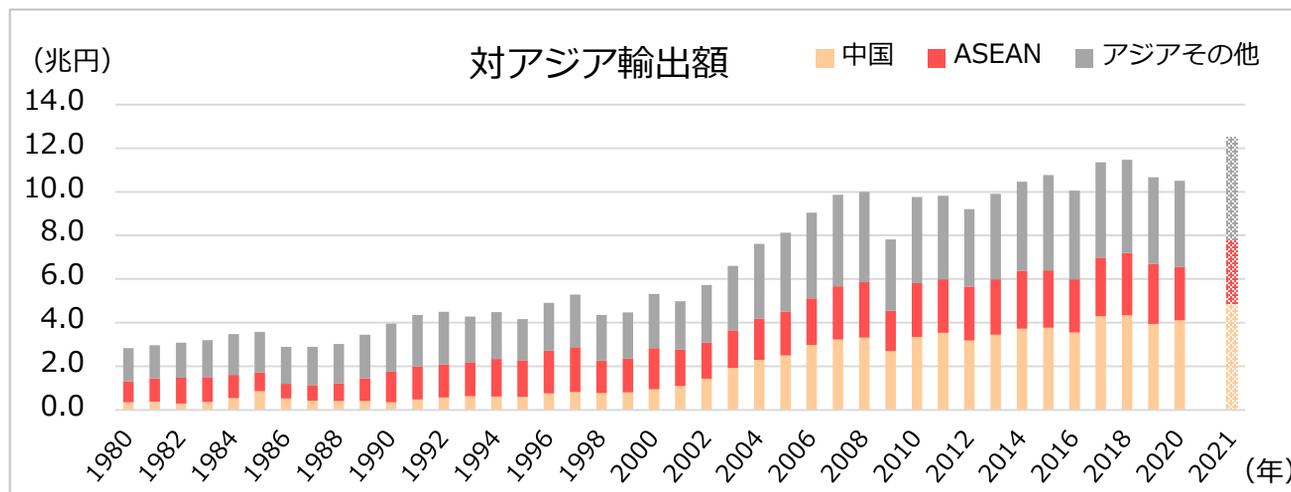
世界の貿易額における構成比としても、アジアの占める割合は高まっており、1980年には輸出入とも35%程度でしたが、2020年には輸出は70%、輸入は約60%に迫るシェアになりました。

## 近畿圏とアジアの貿易

近畿圏とアジアとの経済関係においては、古くは5世紀のころ現在の大阪市中央区あたりに存在したとされる難波津が朝鮮や中国、アジア各国からの玄関口として利用されていたことに遡ります。そのほか、平安時代には現在の神戸港にあたる大輪田泊が日宋貿易の拠点となるなど、歴史的に見て貿易を通じたものが強くありました。

また、1994年に関西国際空港が開港し、1995年には大阪でアジア太平洋経済協力会議（APEC）が開催されるなど、近畿圏はアジアにおいて重要な経済圏であるといえます。

それでは、近畿圏とアジアの貿易の推移をみていきます。



経済背景をみると、ASEAN諸国は1980年代から各国の対外投資優遇政策、企業のビジネス環境変化による投資促進がありました。また、中国は1990年代から経済特区を活用した工業化が進み、「世界の工場」と呼ばれるほど生産拠点の設立が活発化しました。

業界によると、2010年前後からは中国における賃金水準の上昇などを背景に、製造業が中国のみに工場を構えるリスクを回避するため、中国以外の国・地域に分散投資する経営戦略、いわゆる「チャイナプラスワン」としてASEAN諸国は注目されているとのこと。ASEAN諸国は若い年齢層の人口が多く、労働力の確保が容易であること、特にASEAN後発国といわれるカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナムでは、中国と比較して賃金が低水準に抑えられており、親日的な国も多いことが理由として挙げられるとのこと。

近畿圏のアジアにおける構成を見てみると、輸出では1980年は中国が12.6%、ASEANが34.1%で50%に達していませんでしたが、2020年には中国が39.1%、ASEANが23.3%であり、中国とASEANで対アジア輸出額の60%を超えるシェアとなっています。また、輸入では1980年は中国が14.8%、ASEANが49.8%で60%を超えるシェアであったところ、2020年には中国が55.9%、ASEANが25.7%と80%を超えるシェアとなっています。

## 近畿圏とASEANの貿易

ここで、今回のテーマであるASEANに注目してみます。

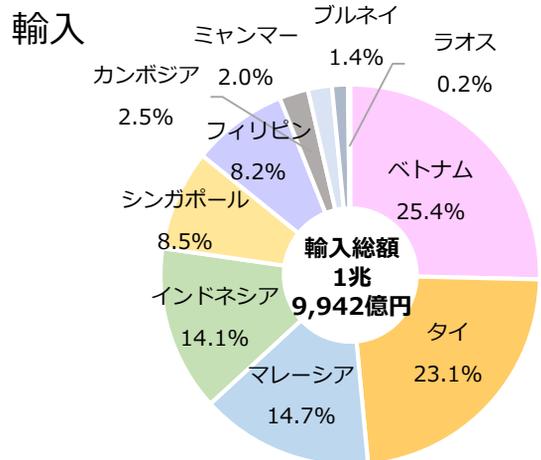
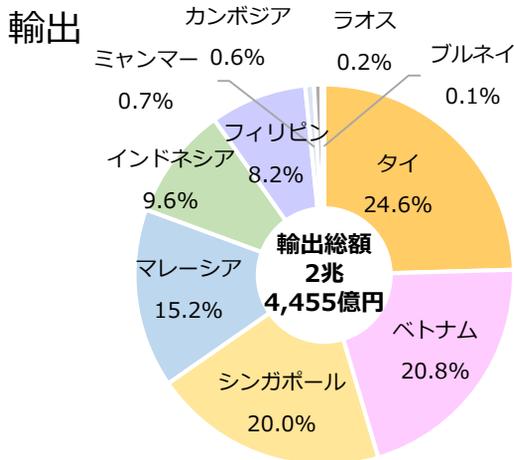
### 国別貿易額上位10か国

(億円)

順位	1980年		1990年		2000年		2010年		2020年		
	国名	貿易額	国名	貿易額	国名	貿易額	国名	貿易額	国名	貿易額	
	総額	78,119	総額	91,042	総額	105,346	総額	144,220	総額	153,702	
輸出	1	アメリカ合衆国	13,185	アメリカ合衆国	20,669	アメリカ合衆国	24,429	中華人民共和国	33,397	中華人民共和国	41,132
	2	香港	4,169	大韓民国	7,383	中華人民共和国	9,434	アメリカ合衆国	15,328	アメリカ合衆国	20,524
	3	大韓民国	4,103	台湾	7,053	台湾	9,187	台湾	14,019	台湾	16,176
	4	台湾	3,899	香港	5,551	香港	7,457	大韓民国	12,463	大韓民国	10,657
	5	中華人民共和国	3,574	ドイツ	5,057	大韓民国	6,968	香港	10,637	香港	9,588
	6	サウジアラビア	3,547	シンガポール	4,412	シンガポール	6,646	タイ	6,542	タイ	6,005
	7	シンガポール	3,035	タイ	3,755	ドイツ	4,887	シンガポール	6,078	ドイツ	5,573
	8	ドイツ	2,925	中華人民共和国	3,552	マレーシア	3,783	ドイツ	4,558	ベトナム	5,097
	9	インドネシア	2,503	英国	3,194	英国	3,131	マレーシア	3,909	シンガポール	4,885
	10	ロシア	2,171	マレーシア	2,346	フィリピン	2,886	インドネシア	3,607	マレーシア	3,720
輸入	総額	60,884	総額	71,763	総額	79,062	総額	114,272	総額	131,273	
	1	アメリカ合衆国	11,569	アメリカ合衆国	13,001	中華人民共和国	19,362	中華人民共和国	38,221	中華人民共和国	43,318
	2	サウジアラビア	7,002	中華人民共和国	6,975	アメリカ合衆国	11,503	アメリカ合衆国	8,303	アメリカ合衆国	12,248
	3	インドネシア	6,612	大韓民国	5,123	台湾	4,515	オーストラリア	5,885	台湾	7,093
	4	オーストラリア	3,349	オーストラリア	3,928	インドネシア	4,214	台湾	5,048	オーストラリア	5,928
	5	中華人民共和国	2,967	インドネシア	3,848	大韓民国	3,855	インドネシア	4,951	大韓民国	5,403
	6	大韓民国	2,849	台湾	3,647	オーストラリア	2,855	大韓民国	4,929	ベトナム	5,057
	7	カナダ	2,021	ドイツ	3,628	マレーシア	2,719	タイ	3,940	タイ	4,614
	8	台湾	1,755	カナダ	2,561	ドイツ	2,618	ドイツ	3,549	ドイツ	4,456
	9	ドイツ	1,729	イタリア	2,524	タイ	2,256	マレーシア	3,356	イタリア	3,005
10	マレーシア	1,456	アラブ首長国連邦	2,052	アラブ首長国連邦	2,117	アラブ首長国連邦	3,074	マレーシア	2,931	

近畿圏における金額での貿易額を1980年以降10年ごとにみていくと、1980年は貿易相手国上位10か国に入っているASEAN諸国は輸出入とも2か国のみでした。しかし、2020年には輸出は4か国、輸入は3か国が入り、近畿圏の貿易におけるASEAN諸国の重要性が高まっています。

### 2020年のASEAN国別構成



2020年の近畿圏におけるASEAN貿易額では、輸出入ともタイとベトナムの2か国で半数に迫る割合を構成しています。

この2か国との貿易額が大きくなっている理由として、日本とタイ、日本とベトナムは経済的な結びつきが強いことが挙げられます。業界によるとタイは日系企業の海外進出数で中国、アメリカに次いで多く、製造業の東南アジア生産拠点として中心的な役割を果たしています。ベトナムは日本が最大援助国であり、近年急速に日系企業の進出が進んでおり、経済的な結びつきが強まっているとのことです。

## ASEAN品別順位の推移

(億円)

順位	1980年		1990年		2000年		2010年		2020年	
	品名	貿易額	品名	貿易額	品名	貿易額	品名	貿易額	品名	貿易額
	総額	9,636	総額	13,953	総額	18,882	総額	24,685	総額	24,455
輸出	1 鉄鋼	1,456	鉄鋼	1,150	半導体等電子部品	3,888	半導体等電子部品	4,184	半導体等電子部品	3,547
	2 織物用糸及び繊維製品	979	織物用糸及び繊維製品	801	事務用機器	1,273	鉄鋼	1,914	鉄鋼	1,420
	3 建設用・鉱山用機械	474	繊維機械	692	鉄鋼	946	原動機	1,262	非鉄金属	1,167
	4 金属製品	471	半導体等電子部品	687	電気回路等の機器	867	鉱物性燃料	891	織物用糸及び繊維製品	1,061
	5 原動機	362	原動機	654	原動機	779	建設用・鉱山用機械	852	原動機	1,046
	総額	10,003	総額	8,032	総額	12,652	総額	17,406	総額	19,942
輸入	1 原油及び粗油	3,523	天然ガス及び製造ガス	1,987	天然ガス及び製造ガス	2,408	天然ガス及び製造ガス	3,683	衣類及び同附属品	2,829
	2 天然ガス及び製造ガス	2,411	原油及び粗油	852	音響・映像機器(含部品)	1,040	半導体等電子部品	938	天然ガス及び製造ガス	1,134
	3 石油製品	890	魚介類及び同調製品	646	事務用機器	985	音響・映像機器(含部品)	789	半導体等電子部品	910
	4 木材	741	石油製品	467	魚介類及び同調製品	792	衣類及び同附属品	772	織物用糸及び繊維製品	679
	5 非鉄金属	345	木製品及びコルク製品(除家具)	365	衣類及び同附属品	707	医薬品	637	魚介類及び同調製品	601

近畿圏におけるASEANの品別上位5品目を見てみると、1980年以降輸出は鉄鋼、輸入は天然ガス及び製造ガスが安定して上位を占めています。取材先によると、鉄鋼の輸出は多くの製造業が立地するタイやベトナムなどで鉄鋼消費量が高いこと、ASEANがグローバルサプライチェーンの中核拠点として成長するに従って需要が増加していることが上位にある理由と考えられるとのこと。

2020年は輸出では半導体等電子部品、輸入では衣類及び同附属品が第1位となっています。

## ASEAN品別輸入額推移

(億円)

	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年
輸入総額	10,003	8,032	12,652	17,406	19,942
食料品	680	1,202	1,364	1,505	2,038
原料品	1,508	877	489	772	820
鉱物性燃料	6,824	3,313	3,051	4,466	1,356
化学製品	137	256	606	1,819	1,975
原料別製品	568	971	1,247	1,563	2,186
一般機械	22	166	1,308	1,237	1,686
電気機器	80	337	2,862	3,391	4,180
輸送用機器	51	18	52	180	329
その他	133	891	1,672	2,473	5,373
製品類	992	2,639	7,748	10,663	15,729
製品類割合	9.9%	32.9%	61.2%	61.3%	78.9%

ASEANからの輸入について注目すると、1980年においてはわが国はASEAN諸国から原材料を輸入し、製品をASEAN諸国へ輸出する構造でした。10年ごとの推移をみると、左の表のとおり徐々に輸入品目における製品類※3の割合が上昇し、ASEANの貿易構造が高度化しているといえます。

## ASEANとの経済連携協定

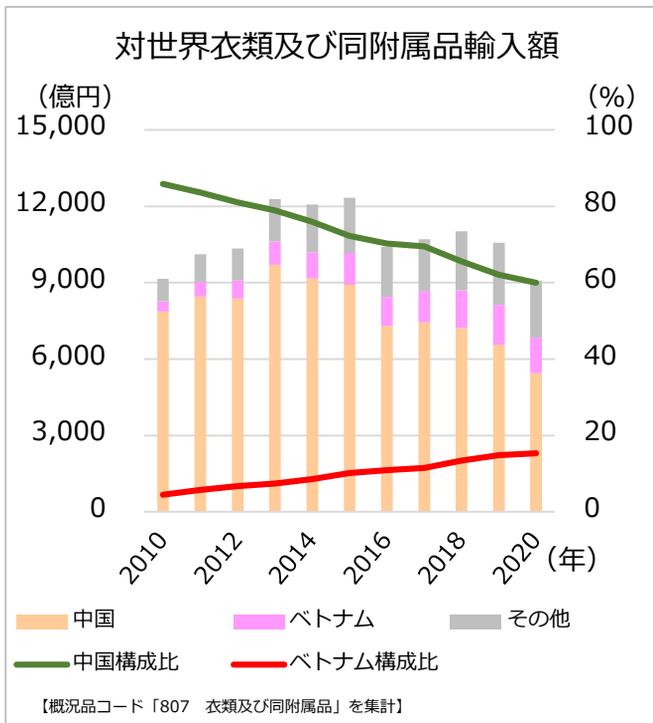
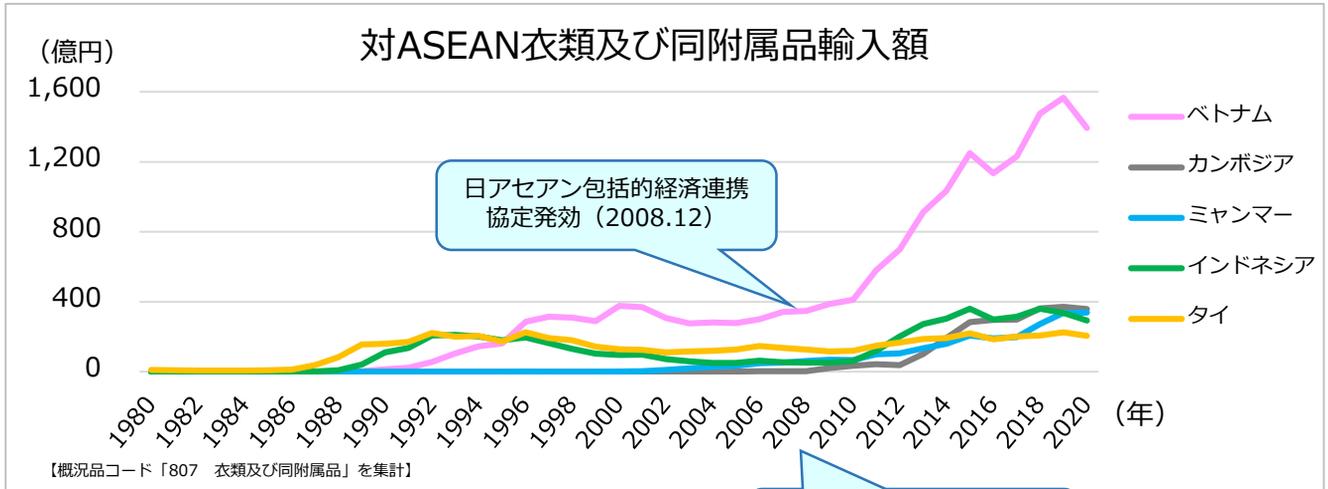
2000年代以降、我が国は各国・各地域と経済連携協定(EPA)を発効しています。特に2008年12月に日アセアン包括的経済連携協定が発効し、ASEAN諸国との経済的な結びつきが強くなります。そのほかに日シンガポール協定(2002年11月)、日マレーシア協定(2006年7月)、日タイ協定(2007年11月)、日インドネシア協定(2008年7月)、日ブルネイ協定(2008年7月)、日フィリピン協定(2008年12月)、日ベトナム協定(2009年10月)、TPP11協定(対ベトナム、2019年1月)などのEPAが発効しています。さらに冒頭で掲げた地域的な包括的経済連携(RCEP)協定の発効で貿易面でのつながりはより一層強まっていくのではないのでしょうか。

EPAの発効による効果として、主に①関税の削減・撤廃、②規制の緩和・撤廃、③投資の促進などを挙げることができます。ASEAN加盟国は日アセアン協定と二国間協定を比較して、関税率や利用条件がより有利な協定を選択して利用可能となっており、EPAの発効は貿易の促進に寄与しています。今後はこの比較される協定にRCEP協定も加わると考えられます。

※3 製品類は、化学製品、原料別製品、一般機械、電気機器、輸送用機器、その他をいう。

## 衣類及び同附属品の輸入について

近畿圏の輸入主要品目であり、対ASEANの輸入第1位の品目となっている衣類及び同附属品の推移についてみてみます。



5 ページにあるASEANの輸入額推移をみると、2010年以降の衣類及び同附属品の輸入額が急増し、品目別順位も上昇していることがわかります。

上記の対ASEAN衣類及び同附属品輸入額のグラフのとおり、特にベトナムにおける増加が著しいです。2010年の411億円、対世界の国別構成比4.5%に対して2020年は1,393億円、国別構成比は15.3%となりました。そしてベトナムは2020年において同品目の対世界第2位の輸入相手国となっています。

一方、輸入相手国第1位の中国について2010年の輸入額が7,861億円、国別構成比85.9%でしたが、2020年の輸入額が5,448億円、国別構成比は60.0%と減少しています。

業界によると、この背景として中国の人件費高騰が挙げられるようです。中国のアパレル分野での生産拠点としての魅力が低下し、その受け皿となった筆頭がベトナムといえます。ベトナムは労働コストの優位性以外にも、地理的に中国に近いこと、生地やボタンの素材の調達までのリードタイムが短いこと、港湾を活用できることが輸入増加の要因と考えられるとのことです。

2008年12月発効の日アセアン包括的経済連携協定、2009年10月発効の日ベトナム経済連携協定により、ASEAN域内での製造において関税削減メリットを活用した製造及び輸入が可能となったことも増加に影響しているとのこと。また、ベトナムは縫製産業が強く、日本向け衣類の受託生産に従事する工場が多いことから、縫製工場のレベルはASEANの中でも比較的高いようです。

さらに、2022年1月発効の包括的経済連携 (RCEP) 協定を利用することになり、日アセアン包括的経済連携協定では対象外であった中国生地が利用可能となるため、輸入の幅が広がると思われるとのこと。

## まとめ

以上のように、近畿圏においてはアジアとのつながりが強いといえます。さらに2022年1月からは地域的な包括的経済連携（RCEP）協定が発効されました。RCEPは日本の他、中国やASEAN構成国（協定署名のASEAN10か国のうちブルネイ、カンボジア、ラオス、シンガポール、タイ、ベトナムの6か国が発効）も参加をしています。今後ますます近畿圏とASEANを含むアジアの貿易動向が注目を浴びております。

そこで、

大阪税関が作成する「近畿圏 貿易概況・速報」に  
令和4（2022）年1月分より、ASEANを追加することとします。

取材協力：国際機関 日本アセアンセンター  
日本繊維輸入組合

## データ集①

（単位は、金額：億円）

### 2021年貿易額（P.1）

国・地域	近畿圏				全国			
	輸出		輸入		輸出		輸入	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
世界	186,025	100.0%	154,670	100.0%	830,931	100.0%	845,652	100.0%
アジア	125,532	67.5%	90,599	58.6%	481,575	58.0%	410,214	48.5%
中国	48,715	26.2%	50,085	32.4%	179,844	21.6%	203,524	24.1%
ASEAN	29,476	15.8%	23,235	15.0%	124,611	15.0%	124,288	14.7%
台湾	19,982	10.7%	8,234	5.3%	59,871	7.2%	36,924	4.4%
韓国	12,275	6.6%	6,835	4.4%	57,695	6.9%	35,196	4.2%
アジアその他	15,084	8.1%	2,209	1.4%	59,555	7.2%	10,283	1.2%
アメリカ	25,484	13.7%	13,592	8.8%	148,324	17.9%	88,905	10.5%
EU	18,568	10.0%	20,012	12.9%	76,685	9.2%	94,118	11.1%
その他	16,441	8.8%	30,467	19.7%	124,347	15.0%	252,415	29.8%

### 近畿圏の貿易額推移（P.2）

年	輸出			輸入			年	輸出			輸入		
	世界	アジア		世界	アジア			世界	アジア		世界	アジア	
	金額	金額	構成比	金額	金額	構成比		金額	金額	構成比	金額	金額	構成比
1980年	78,119	28,281	36.2%	60,884	20,070	33.0%	2001年	96,663	49,827	51.5%	82,378	44,823	54.4%
1981年	88,521	29,688	33.5%	60,711	20,580	33.9%	2002年	103,794	57,338	55.2%	81,591	45,326	55.6%
1982年	89,469	30,775	34.4%	64,083	21,736	33.9%	2003年	111,829	66,091	59.1%	83,603	47,408	56.7%
1983年	86,271	32,029	37.1%	58,285	19,430	33.3%	2004年	126,852	76,194	60.1%	93,133	53,678	57.6%
1984年	96,478	34,721	36.0%	63,775	22,857	35.8%	2005年	135,280	81,255	60.1%	106,383	60,586	57.0%
1985年	98,022	35,835	36.6%	60,904	22,290	36.6%	2006年	152,436	90,402	59.3%	121,122	69,066	57.0%
1986年	78,048	28,929	37.1%	50,311	16,620	33.0%	2007年	166,680	98,595	59.2%	130,627	74,541	57.1%
1987年	72,827	29,004	39.8%	47,413	19,172	40.4%	2008年	165,532	99,948	60.4%	136,838	74,904	54.7%
1988年	73,465	30,185	41.1%	53,373	22,035	41.3%	2009年	120,313	78,120	64.9%	98,413	57,160	58.1%
1989年	81,944	34,533	42.1%	64,654	25,909	40.1%	2010年	144,220	97,611	67.7%	114,272	67,031	58.7%
1990年	91,042	39,630	43.5%	71,763	26,588	37.1%	2011年	145,649	98,130	67.4%	132,392	75,324	56.9%
1991年	92,935	43,524	46.8%	67,888	28,026	41.3%	2012年	135,756	92,074	67.8%	135,387	75,362	55.7%
1992年	94,493	44,942	47.6%	63,631	27,878	43.8%	2013年	146,374	99,114	67.7%	152,542	86,928	57.0%
1993年	85,310	42,843	50.2%	58,562	26,807	45.8%	2014年	156,657	104,658	66.8%	163,078	91,169	55.9%
1994年	85,375	44,821	52.5%	61,277	29,263	47.8%	2015年	160,697	107,622	67.0%	151,881	89,102	58.7%
1995年	76,652	41,615	54.3%	60,756	28,946	47.6%	2016年	148,498	100,447	67.6%	130,311	76,832	59.0%
1996年	89,870	49,024	54.5%	76,390	36,775	48.1%	2017年	166,092	113,516	68.3%	146,597	83,369	56.9%
1997年	104,237	52,875	50.7%	82,055	39,157	47.7%	2018年	171,476	114,631	66.8%	154,349	86,892	56.3%
1998年	101,526	43,583	42.9%	73,342	34,945	47.6%	2019年	162,647	106,705	65.6%	147,190	83,418	56.7%
1999年	96,978	44,774	46.2%	68,450	34,663	50.6%	2020年	153,702	105,066	68.4%	131,273	77,454	59.0%
2000年	105,346	53,171	50.5%	79,062	41,853	52.9%	2021年	186,025	125,532	67.5%	154,670	90,599	58.6%

## 近畿圏の対アジア貿易額推移 (P.3)

年	輸出						輸入					
	アジア	中国		ASEAN		アジア その他	アジア	中国		ASEAN		アジア その他
	金額	金額	構成比	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比	金額	構成比	金額
1980年	28,281	3,574	12.6%	9,636	34.1%	15,071	20,070	2,967	14.8%	10,003	49.8%	7,100
1981年	29,688	3,745	12.6%	10,699	36.0%	15,244	20,580	3,483	16.9%	9,675	47.0%	7,421
1982年	30,775	2,984	9.7%	11,804	38.4%	15,987	21,736	3,778	17.4%	10,147	46.7%	7,812
1983年	32,029	3,646	11.4%	11,454	35.8%	16,929	19,430	3,703	19.1%	8,428	43.4%	7,300
1984年	34,721	5,390	15.5%	10,710	30.8%	18,622	22,857	4,855	21.2%	9,987	43.7%	8,015
1985年	35,835	8,646	24.1%	8,664	24.2%	18,524	22,290	4,931	22.1%	9,210	41.3%	8,149
1986年	28,929	5,315	18.4%	6,705	23.2%	16,908	16,620	3,593	21.6%	5,507	33.1%	7,520
1987年	29,004	4,259	14.7%	7,184	24.8%	17,560	19,172	4,288	22.4%	5,138	26.8%	9,747
1988年	30,185	4,166	13.8%	8,067	26.7%	17,952	22,035	5,306	24.1%	5,669	25.7%	11,059
1989年	34,533	4,153	12.0%	10,287	29.8%	20,092	25,909	6,527	25.2%	6,669	25.7%	12,713
1990年	39,630	3,552	9.0%	13,953	35.2%	22,125	26,588	6,975	26.2%	8,032	30.2%	11,582
1991年	43,524	4,818	11.1%	15,009	34.5%	23,697	28,026	7,986	28.5%	8,691	31.0%	11,349
1992年	44,942	5,762	12.8%	15,180	33.8%	24,000	27,878	9,341	33.5%	8,253	29.6%	10,284
1993年	42,843	6,287	14.7%	15,668	36.6%	20,888	26,807	9,882	36.9%	8,018	29.9%	8,907
1994年	44,821	6,156	13.7%	17,277	38.5%	21,387	29,263	12,015	41.1%	8,301	28.4%	8,947
1995年	41,615	6,004	14.4%	16,764	40.3%	18,847	28,946	12,269	42.4%	8,351	28.8%	8,326
1996年	49,024	7,562	15.4%	19,551	39.9%	21,910	36,775	16,310	44.4%	11,090	30.2%	9,374
1997年	52,875	8,130	15.4%	20,641	39.0%	24,104	39,157	17,744	45.3%	12,035	30.7%	9,378
1998年	43,583	7,800	17.9%	14,919	34.2%	20,865	34,945	16,577	47.4%	10,362	29.7%	8,006
1999年	44,774	8,079	18.0%	15,509	34.6%	21,185	34,663	16,432	47.4%	10,363	29.9%	7,868
2000年	53,171	9,434	17.7%	18,882	35.5%	24,855	41,853	19,362	46.3%	12,652	30.2%	9,840
2001年	49,827	11,031	22.1%	16,593	33.3%	22,204	44,823	21,970	49.0%	13,895	31.0%	8,959
2002年	57,338	14,340	25.0%	16,708	29.1%	26,290	45,326	23,607	52.1%	13,481	29.7%	8,238
2003年	66,091	19,352	29.3%	17,162	26.0%	29,577	47,408	25,779	54.4%	13,517	28.5%	8,113
2004年	76,194	22,875	30.0%	18,857	24.7%	34,463	53,678	29,827	55.6%	14,538	27.1%	9,313
2005年	81,255	25,018	30.8%	20,179	24.8%	36,059	60,586	34,726	57.3%	16,086	26.6%	9,774
2006年	90,402	29,791	33.0%	21,413	23.7%	39,198	69,066	39,933	57.8%	17,910	25.9%	11,223
2007年	98,595	32,347	32.8%	24,336	24.7%	41,911	74,541	43,910	58.9%	18,929	25.4%	11,703
2008年	99,948	33,175	33.2%	25,353	25.4%	41,420	74,904	42,219	56.4%	20,560	27.4%	12,125
2009年	78,120	27,092	34.7%	18,415	23.6%	32,613	57,160	33,574	58.7%	14,440	25.3%	9,146
2010年	97,611	33,397	34.2%	24,685	25.3%	39,529	67,031	38,221	57.0%	17,406	26.0%	11,404
2011年	98,130	35,417	36.1%	24,472	24.9%	38,241	75,324	43,150	57.3%	19,367	25.7%	12,807
2012年	92,074	31,868	34.6%	24,658	26.8%	35,548	75,362	42,976	57.0%	19,835	26.3%	12,551
2013年	99,114	34,459	34.8%	25,449	25.7%	39,206	86,928	49,352	56.8%	22,790	26.2%	14,786
2014年	104,658	37,293	35.6%	26,408	25.2%	40,958	91,169	51,140	56.1%	24,008	26.3%	16,021
2015年	107,622	37,649	35.0%	26,322	24.5%	43,651	89,102	49,840	55.9%	23,241	26.1%	16,021
2016年	100,447	35,536	35.4%	24,324	24.2%	40,588	76,832	43,799	57.0%	19,133	24.9%	13,900
2017年	113,516	43,013	37.9%	26,895	23.7%	43,609	83,369	47,894	57.4%	20,419	24.5%	15,057
2018年	114,631	43,442	37.9%	28,660	25.0%	42,529	86,892	49,334	56.8%	22,158	25.5%	15,400
2019年	106,705	39,444	37.0%	27,531	25.8%	39,729	83,418	45,466	54.5%	22,168	26.6%	15,784
2020年	105,066	41,132	39.1%	24,455	23.3%	39,480	77,454	43,318	55.9%	19,942	25.7%	14,194
2021年	125,532	48,715	38.8%	29,476	23.5%	47,342	90,599	50,085	55.3%	23,235	25.6%	17,279

### データ集③

(単位は、金額：億円)

#### 近畿圏の対ASEAN貿易額（2020年）（P.4）

順位	輸出			輸入		
	国	輸出額	構成比	国	輸入額	構成比
1	タイ	6,005	24.6%	ベトナム	5,057	25.4%
2	ベトナム	5,097	20.8%	タイ	4,614	23.1%
3	シンガポール	4,885	20.0%	マレーシア	2,931	14.7%
4	マレーシア	3,720	15.2%	インドネシア	2,804	14.1%
5	インドネシア	2,343	9.6%	シンガポール	1,700	8.5%
6	フィリピン	2,012	8.2%	フィリピン	1,627	8.2%
7	ミャンマー	182	0.7%	カンボジア	492	2.5%
8	カンボジア	155	0.6%	ミャンマー	407	2.0%
9	ラオス	41	0.2%	ブルネイ	272	1.4%
10	ブルネイ	15	0.1%	ラオス	37	0.2%

#### 近畿圏の対ASEAN衣類及び同附属品輸入額（P.6）

年	ベトナム	カンボジア	ミャンマー	インドネシア	タイ	年	ベトナム	カンボジア	ミャンマー	インドネシア	タイ
1980年	0	—	—	1	10	2001年	369	0	3	98	125
1981年	—	—	—	1	9	2002年	307	0	10	72	111
1982年	—	—	—	2	6	2003年	276	0	19	59	116
1983年	—	—	—	0	6	2004年	282	0	29	51	120
1984年	0	—	—	1	6	2005年	279	1	34	51	128
1985年	0	—	—	1	9	2006年	301	4	49	64	148
1986年	1	—	—	1	12	2007年	342	4	53	55	136
1987年	1	—	—	1	37	2008年	347	4	62	53	127
1988年	0	0	—	8	83	2009年	388	21	69	52	117
1989年	3	—	—	42	157	2010年	411	35	67	62	119
1990年	14	—	—	110	159	2011年	580	43	100	119	149
1991年	23	—	—	136	170	2012年	700	37	106	202	167
1992年	56	0	0	208	221	2013年	913	101	135	272	187
1993年	105	—	—	211	200	2014年	1,034	192	159	304	193
1994年	146	0	0	202	206	2015年	1,250	284	207	361	220
1995年	162	0	0	180	172	2016年	1,134	297	190	299	186
1996年	286	0	1	196	225	2017年	1,231	298	199	314	201
1997年	314	0	0	164	192	2018年	1,476	362	273	360	207
1998年	309	0	0	131	180	2019年	1,566	372	337	336	225
1999年	289	0	0	104	144	2020年	1,393	359	339	293	206
2000年	377	0	1	97	129						

## データ集④

(単位は、金額：億円)

### 近畿圏の対世界衣類及び同附属品輸入額 (P.6)

年	世界		中国		ベトナム		その他	
	金額	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
2010年	9,152	7,861	85.9%	411	4.5%	880	9.6%	
2011年	10,116	8,454	83.6%	580	5.7%	1,081	10.7%	
2012年	10,344	8,382	81.0%	700	6.8%	1,262	12.2%	
2013年	12,289	9,706	79.0%	913	7.4%	1,670	13.6%	
2014年	12,072	9,166	75.9%	1,034	8.6%	1,872	15.5%	
2015年	12,337	8,919	72.3%	1,250	10.1%	2,168	17.6%	
2016年	10,402	7,308	70.3%	1,134	10.9%	1,960	18.8%	
2017年	10,705	7,444	69.5%	1,231	11.5%	2,030	19.0%	
2018年	11,022	7,226	65.6%	1,476	13.4%	2,321	21.1%	
2019年	10,564	6,559	62.1%	1,566	14.8%	2,439	23.1%	
2020年	9,085	5,448	60.0%	1,393	15.3%	2,243	24.7%	

## ASEAN加盟国



ミャンマー



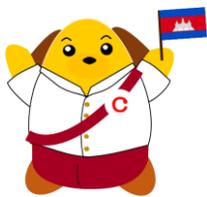
ラオス



ベトナム



タイ



カンボジア



ブルネイ



フィリピン



マレーシア



シンガポール



インドネシア

○2021年(令和3年)は速報値、2020年(令和2年)以前は確定値となります。

○本特集における経済圏は以下の府県を含むものになります。

近畿圏：大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

○価格は輸出についてはF O B価格、輸入についてはCIF価格で集計して計上しています。

○表示単位未満は四捨五入をしています。また、「0」は単位に満たないもの、「-」は実績なしのものを指します。

※本資料を他に転載するときは大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

※本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課までお願いします(電話06-6966-5385)